

聖人肝潰志





万亭應賀著

第初号

# 聖人肝潰志

明治新刻

榮久文庫

48-7663

聖人肝潰志發端序



夫文作をして先生と云ふは、先生の灰吹をりけふ先生といふ  
 是は、先生の遺言を讀むに、先生の遺言を讀むに、先生の遺言を讀むに、  
 聖人肝潰を綴るは、夜業の自在の天井、下れど柵、落と杜  
 丹餅の一度の喰ひあはし、天命の由、天命と天道、まふ其  
 目をおろして、今と吾年の五十、人の心、鹿猿生獸、  
 人として止る、鳥おど、鹿猿生獸、  
 ぬらくぶらの助、世本性の御、御免候へ

明治五壬申年

万亭應賀誌



A756

聖人肝潰志









聖人財源志

三



後母の連子象九郎  
春次を井戸の中に  
入れて殺さんとせらるるを

後母の連子  
象九郎

次編の本文あり



○ 賢遇 聖人肝潰志 万亭應賀著  
新文 初号

東都智作郎

花の束の懸る所小室屋宗六の座物有りの名と名れ  
から字をとりて表の字に附ふ人小室の座とのみ  
家の牌名を忠次とよびて幼より昌平山の春翁先生の塾  
と名つて聖人の学文をまらびけりその才智凡まらざれば  
十み方ゆへ和漢の國史群書小説ふらるるをわきまなく  
まらびせらんとけり春翁由末とのりて玉家の名と

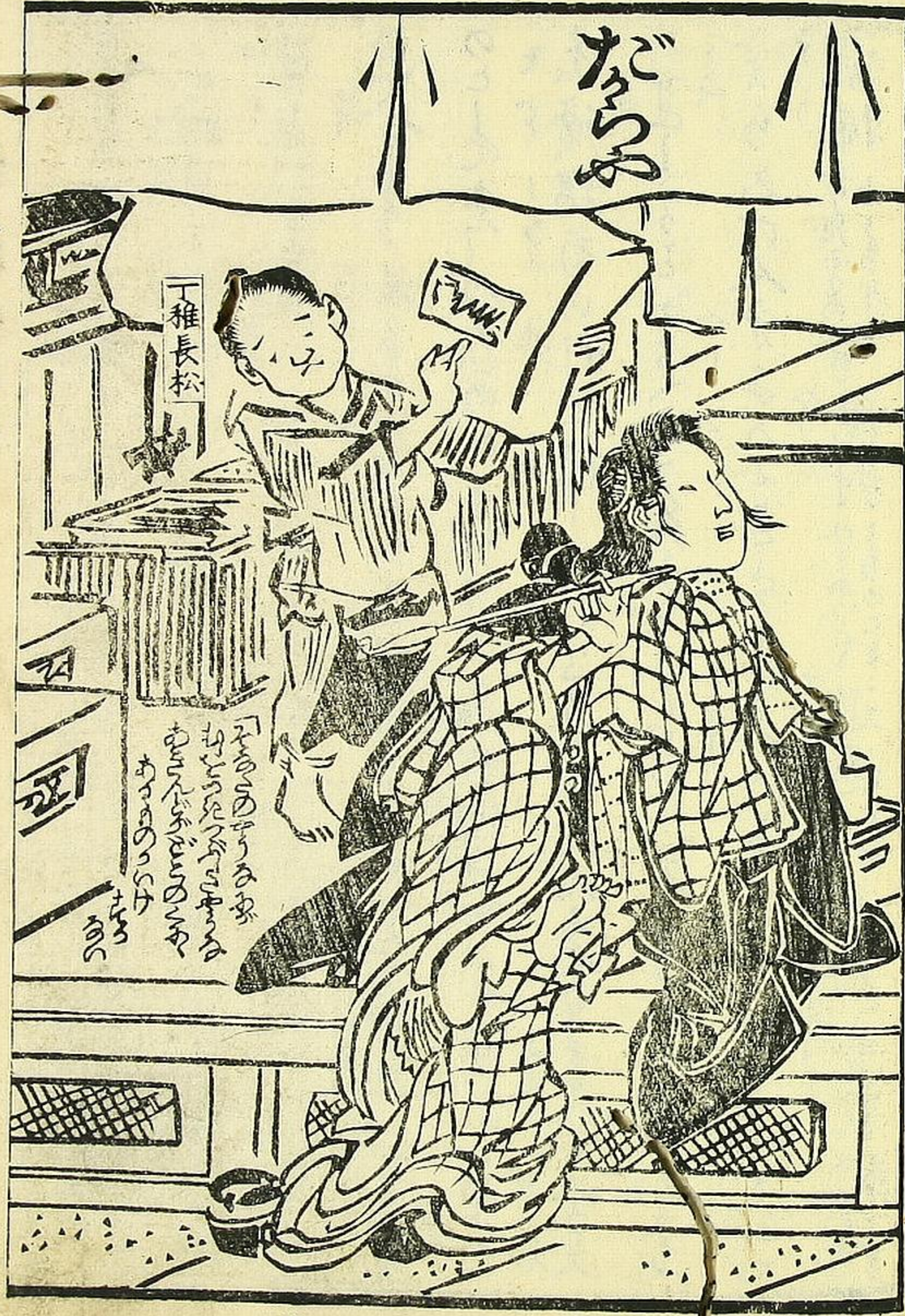












工稚長松

工稚長松の  
 博学の春次父の家と相  
 續之帳場小居

小なら



二代の小宗

二天の  
 心算  
 博学の  
 春次父  
 の家と  
 相續之  
 帳場  
 小居

宝屋

心算

博学の春次父の家と相  
 續之帳場小居

心算

聖人月清志初

六

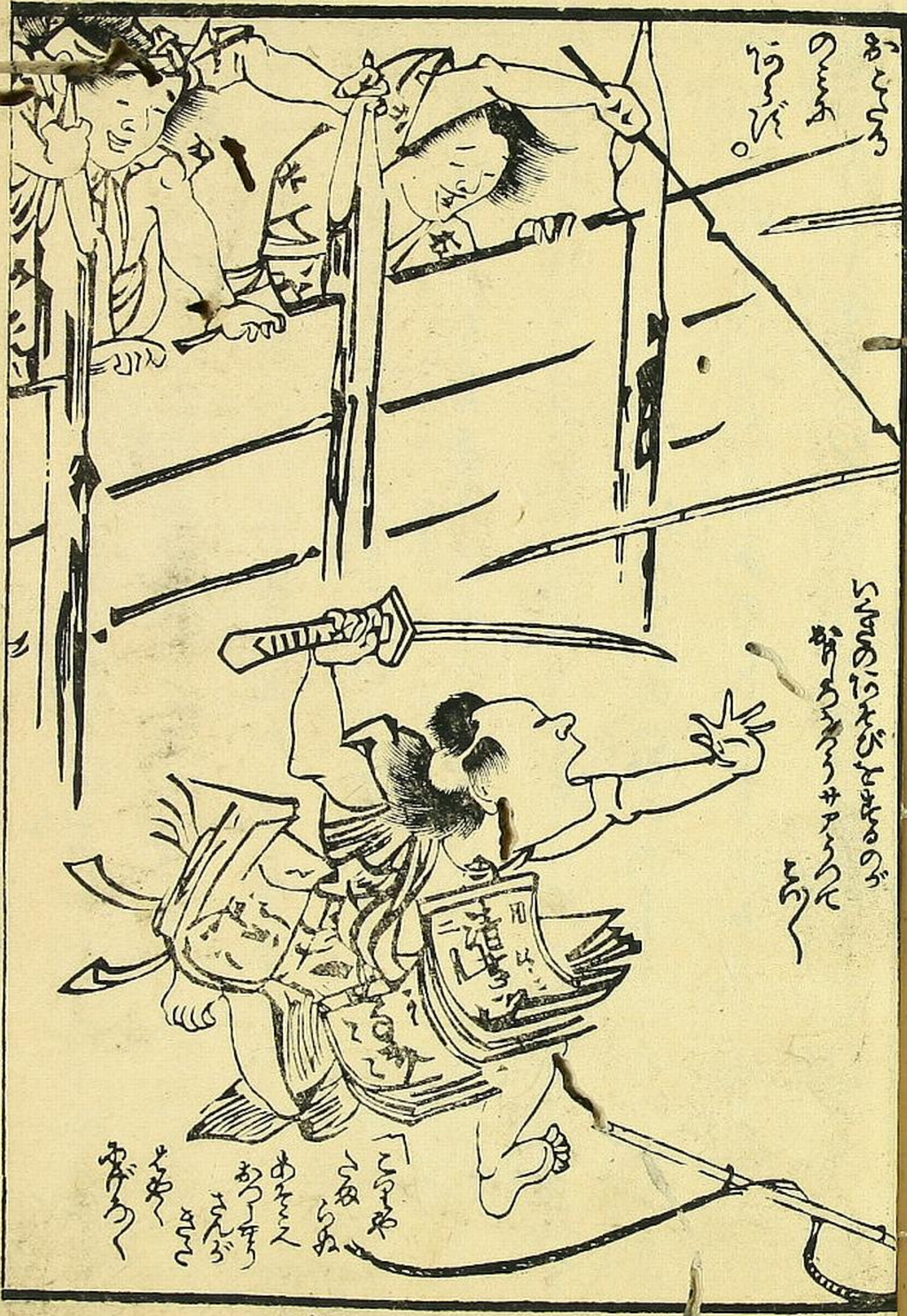












あつち  
の  
うら  
い。

Shogun's Palace  
of the  
Emperor

あつち  
の  
うら  
い  
あつち  
の  
うら  
い  
あつち  
の  
うら  
い



悪  
性  
の  
童  
子  
の  
数  
多  
の  
子  
供  
を  
梅  
事  
に  
か  
ま  
み  
て  
絶  
首  
古  
を

あつち  
の  
うら  
い  
師  
匠  
を  
誣  
ま  
す

あつち  
の  
うら  
い

馬  
人  
月  
注  
志  
下

六











Handwritten text in Kuzushiji script, likely a list or record of names and locations, possibly related to the entries on the adjacent page. The text is written vertically and includes various characters and symbols.

東京

芝神明前・和泉屋市兵衛  
馬喰町二丁目 森 屋治兵衛

書肆

同 山口屋藤兵衛  
通油町 藤岡屋慶次郎

地本

横山町三丁目 辻岡屋文助  
浅草茅町 品川屋朝次郎

問屋

本所松坂町 三河屋又兵衛  
親父橋角 山本平吉

010190522925



